容り制度におけるPETボトル事業の課題

ウツミリサイクルシステムズ株式会社
代表取締役
内海正顕

課題概要

（1）入札の頻度

最低でも四半期毎に

（2）入札枠の弾力運用

再商品化事業者の販売先の事情に合わせた方式の検討を

（3）3か月ルールの弾力運用

課題1　入札頻度
9か月もの相場リスク変動を負担

- バージンPETは毎日相場が変動しております
- 一方PETボトルは年間2回の入札方式で運用されています。また入札時期は上期は1月末、下期は7月上旬に行われております。
  上期で言えば4月～9月の調達分が固定価格となり札入時期から見れば実に9か月の期間がリスク負担期間。あまりにもリスク負担時間が長すぎる。
- 入札から引取開始迄の3か月の短縮化（1月程度）及び入札は2か月毎に行う事が望ましい

課題2
落札枠申請の柔軟運用

- 協会から認定枠が通知され、現在1月に事業者が1年間の希望枠・上下の比率を申請。下期は場合によっては数量を削減できる事が認められている。
- 末端用途が不安定な場合、希望枠を認定枠よりも下げて申請をする事が一般的である。需要が下期に復活した場合でも半年前に枠が固定化されており取りこぼしとなります。
- 認定枠の範囲内であれば、上期下期に関わらず随時入札数量を市場実態に合わせて変更出来る事を期待したいと考えます。

課題3
3ヶ月ルールの弾力運用

- フレーク製造後3か月以内に販売を終了する事が求められております。
- 通常のビジネスに於いて3か月を超える在庫期間と言うのは決して異常と言うレベルではありません。普通に存在すると言っても過言では御座いません。
- このルールが故に、フレーク会社がフレークを売り急ぐことを余儀なくされ相場の脆弱化の理由の一つとなっております。
- 本ルールの弾力運用を望みます。